

生駒市学校教育のあり方検討委員会
学校規模適正化部会
令和元年度第4回（第9回）会議 会議録

開催日時 令和元年7月30日（火） 午後2時から

開催場所 生駒市役所 4階 403・404会議室

出席者

（委員） 前田部会長、松尾委員、岡島委員、高島委員、山中委員、
大谷委員

（事務局） 真銅教育振興部長、辻中教育総務課長、城野教育指導課長、
山本教育総務課課長補佐、前田教育指導課課長補佐、
牧井教育総務課庶務係長

（傍聴者） 1名

1 案 件

(1) 前回会議での主な意見の確認

（前田部会長） まず、事務局より「資料1 前回会議での主な意見のまとめ」について、説明いただく。

（事務局） 【資料1の説明】

（前田部会長） 何かご意見等はないか。

（山中委員） 市民・教職員アンケートの結果について、最後の項目についての文章表現が気になる。若い先生も増えていることも踏まえると、単学級になると、他のクラスの先生方と協力し合ったりできないということが懸念されるということであったかと思う。

（事務局） 修正させていただく。

（前田部会長） 評価の前提条件については、どの段階で検討することになるのか。

（事務局） 基本的な進め方等については、前回においてご決定いただいたかと思うが、次回会議で、より詳細な前提条件の案につ

いて事務局から提示させていただければと思う。

(2) 「望ましい」学校規模・学校配置について

(前田部会長) 事務局から資料について説明いただく。

(事務局) 【資料2の説明】

(前田部会長) 前回の会議を踏まえて事務局で修正していただきたい。
ご意見等はないか。

(松尾委員) 今後、少子化に伴って国の基準が変わる可能性はあるのか。

(事務局) 少子化に伴い、今後基準が変更になる可能性はあるとは思
う。また、現在中教審において、教科担任制について検討さ
れている状況もある。今後、40人が35人に変更されるこ
とはないとは言えない。ただし、あくまでも可能性であって、
現時点では明確にはなっていない。

(高島委員) 学級数については、国の基準があるが、市独自で考える
ということで、理由としては、将来的な児童生徒数と施設利用
を挙げられているが、よく分からない。現状と比較して、設
定されたのか教えてもらいたい。

中学校でも、9学級とされているが、どのような理由から
9学級にされたのか。教えていただきたい。

(事務局) あすか野小学校については、令和6年まで大規模校が続く
ということとなっている。以前、各学年4クラスが最も学校
運営がやり易いという意見もあり、また現在18学級を超え
る学校を複数存在していることから、24クラスに設定させ
ていただいたものである。また、中学校については、上中学
校が令和6年まで大規模校の状態になると予想されている。
部活動などの面から、各学年3クラスが最低ラインというこ
とで設定させていただいたものである。

(高島委員) 現状を踏まえて設定されたということで、小学校の上限を
18学級にすると現実的でないことから、これで結構かと思
う。

(前田部会長) 施設利用の理由とはどういうことか。現在の施設を活用し
た場合ということか。上限設定の理由を冒頭に記載していた

だいていると考えた場合、考え方の部分にも上限設定についての理由を記載することが必要ではないか。

(大谷委員) 施設利用の理由とは、理科室や図工室などの特別教室については、それほど数が多くない。クラス数が多いと円滑な学校運営ができるのか疑問がある。

(山中委員) 教務主任が時間割の割振りを行うが、24クラスを超えるとかかなり厳しくなってくると思う。運動場についても、半ずつで割り振っていることで、対応している。担任や専科教員の持ち時間数にもよるとは思う。

(高島委員) 中学校が許容範囲の24学級となると、特別教室の使い方がかなり厳しくなってくる。18学級であれば特別教室も多いことから、対応できる。24学級となると、教室が不足してくると思う。許容範囲ということでこれは良いとは思いますが、現実的には18学級が上限でいいとは思う。

(前田部会長) 施設の最も大きく入る学校において、最大何学級収容可能なのか。

(事務局) 上中学校で最大21学級になろうかと思う。

(前田部会長) では、現実的な問題として、21学級で良いのではないか。

(事務局) 21学級に変更させていただく。

(前田部会長) では、続いて「学校配置の基準(案)」について、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局) 【資料3の説明】

(前田部会長) 何かご意見等はないか。

(高島委員) 基準については、距離を基準としつつも、場合によっては自転車等の通学手段を認めていくということで良いと思う。

(松尾委員) (2)④について、かなり難しい部分である。市民自治協議会が正式に発足したが、実際は非常に難しい。

西壺分町について、前回話をしたが、現実的には非常に難しいと思う。

(3) 学校規模適正化等検討に当たっての評価項目等について

(事務局) 【資料4の説明】

- (松 尾 委 員) 統 合 す る 場 合 の 評 価 項 目 、 効 率 性 、 教 育 環 境 の 部 分 に つ い て 、 前 回 の 望 ま し い 状 態 か ら 特 に 望 ま し い 状 態 に 変 更 さ れ た の は な ぜ か 。
- (事 務 局) 総 得 点 を 1 0 0 点 満 点 と す る た め に 調 整 さ せ て い た だ い た も の で あ る 。
- (岡 島 委 員) 教 育 環 境 の 公 共 施 設 等 に つ い て 、 ど の よ う な 施 設 を 想 定 さ れ て い る の か 。 ま た 、 1 5 点 と 1 0 点 の 隣 接 と 近 接 に つ い て 、 具 体 的 に ど の 程 度 の 距 離 を 想 定 さ れ て い る の か 伺 い た い 。
- (事 務 局) 公 共 施 設 等 に つ い て は 、 図 書 館 や プール な の 施 設 を 想 定 し て い る 。 ま た 、 距 離 に つ い て は 、 や は り 徒 歩 で 行 け る と し て も 、 1 授 業 単 位 を 使 っ て し ま う と 近 接 と い う 風 に な ら ざ る を 得 な い 。 例 え ば 、 生 駒 南 第 二 小 の 道 路 向 か い に 屋 内 温 水 プール き ら め き が あ る が 、 あ れ は 隣 接 と 言 え る 。
- (岡 島 委 員) 具 体 的 に 半 径 何 m と い う こ と が 出 せ る の で あ れ ば 、 出 し た 方 が い い の で は な い か 。
- (事 務 局) 近 接 と い う 言 葉 が 分 か り に く い の で 、 客 観 的 に 分 か る よ う な 表 現 に 改 め さ せ て い た だ く 。
- (山 中 委 員) 施 設 の 対 象 を ど う す る か に よ っ て も 変 わ っ て く る 。 公 園 と な れ ば 、 住 宅 地 の 中 に は ど こ に で も あ る 。
- (事 務 局) 公 共 施 設 等 に つ い て も 具 体 例 を 挙 げ る よ う に 修 正 さ せ て い た だ く 。
- (前 田 部 会 長) 改 善 可 能 な 課 題 が あ る と い う こ と と 、 改 善 困 難 な 課 題 が あ る と い う 表 現 と 評 価 と の 整 合 性 に つ い て 、 例 え ば 教 育 環 境 に つ い て 、 改 善 可 能 な 課 題 が あ る と し て 、 教 育 環 境 の 向 上 に 資 す る 公 共 施 設 等 が 、 近 接 し て い る と あ る が 、 こ れ は 改 善 可 能 な 課 題 な の か 。 評 価 項 目 を 設 定 す る の は 、 非 常 に 分 か り や す い と は 思 う が 、 評 価 と 各 項 目 の 表 現 の 整 合 性 に つ い て は 検 討 が 必 要 で あ る と は 思 う 。
- ま た 、 一 つ 目 の 評 価 項 目 に つ い て 、 必 要 性 を あ る が 、 適 正 な 学 校 規 模 の 確 保 は な ぜ 必 要 性 と さ れ て い る の か 。
- (事 務 局) 特 に 必 要 性 と は 関 連 が な い こ と か ら 、 削 除 さ せ て い た だ き 、 適 正 な 学 校 規 模 の 確 保 の み と さ せ て い た だ く 。

- (前田部会長) 効率性と教育環境について、統合する学校の既存の学校敷地等の活用に課題があると教育の質の向上に資する公共施設等が近接しているが同じ評価とは言い難いのではないか。近接ではあるが、活用できるということを考えれば、10点の望ましい状態でもいいのではないか。
- (事務局) 先ほどの隣接と近接の表現も含めて改めて検討させていただく。
- (松尾委員) 公共施設等が近接していれば、改善可能な課題にはならないのではないか。
- (大谷委員) 望ましい学校配置について、学校そのものの学校を動かすことはできないことから、校区を変更することということで、検討を進めていくということだが、学校と公共施設の位置を変えることはできないことから、どのように評価していくのが難しい。移動距離だけではなく、当該公共施設でどのような活動をするのかも重要であって、公共施設を増やすこともできないことから、校区に関係なく評価されるのではないか。
- (事務局) 出されたご意見を踏まえて、事務局にて再度検討させていただき、次回会議において提示させていただきたいと思う。
- (山中委員) 地域との連携について、現状以下になることは現実的にはないと考えられるので、削除してはどうか。
- (前田部会長) これらの点数がどれぐらいの意味を持つものなのかを踏まえる必要がある。比較することに意味はあるが、順番をつけることに意味がないと思う。やはり、0点の項目がある場合は検討が必要という風になってくるのではないかと思う。
- (大谷委員) 何点以上がいいのか、何点以下がダメなのかという基準が必要になってくるのではないか。
- (岡島委員) 点数を付けた後が大変になってくるのではないか。点数の根拠が必要になってくる。
- (事務局) 交野市では、評価の部分において、評価表については、基本的な評価項目・内容に基づく各配置案の客観的な評価を示すものであり、評価点のみで配置を決定するものではない。

との記載があり、あくまでも評価については指標の一つとしている。

評価については、あくまでも相対化することで、評価しやすくするためのものであって、何点以下がダメで何点以上ならいいというものではないと考えている。

(前田部会長) 先行事例もあることから、評価していくことは特に問題ないと思う。点数そのものには、何も意味がないと思うが、項目立てて評価していくことについては、意味があると思う。

(大谷委員) 改善すべき点を見つけていくために評価していくということでもいいのではないか。

(前田部会長) 点数そのものはあくまでも表現の仕方ということになる。

(山中委員) 統合する場合の評価については、どのように評価していくのか。上の項目については、現状を評価するということで可能かと思うが。

(高島委員) 一定の学校規模を考えた場合に、ある学校とある学校を統合するという案を出さないといけないと思う。すべての学校について、評価することは現実的ではない。小規模校を対象に二つを一つに統合する場合に評価することになるかと思う。

(前田部会長) 統合していくとなった場合の評価ということで事務局もそれを想定して設定しているということによろしいか。

(事務局) その通りです。

(4) その他

次回会議は9月17日(火)午後2時から開催

以上